

二〇九二番

天地あめつちと 別わかれし時ときゆ ひさかたの 天あまつしるしと  
 定さだめてし 天あまの川かはら原はらに あらたまの 月つき重かさなりて  
 妹いもに逢あふ 時ときさもらふと 立たち待まつに 我わが衣ころも手で  
 に 秋あき風かせの 吹ふき反かへらへば 立たちて居ゐる たどき  
 を知しらに むら肝きもの 心こころいさよひ 解とき衣きぬの  
 思おもひ乱みだれて いっしかと 我あが待まつ今こよひ夜ひ この川かは  
 の 流ながれの長ながく ありこせぬかも

反歌

二〇九三番

妹いもに逢あふ 時とき片かた待まつと ひさかたの 天あまの川かはら原はらに  
 月つきぞ経へにける